

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100012		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム中西郷 1F		
所在地	岐阜市中西郷1丁目71番地		
自己評価作成日	令和元年 8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2190100012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2190100012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和元年 8月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針にも掲げているように、生活機能訓練(生活機能向上)に関する助言をPTさんにいただき、病歴・体調を考慮しながら目標を決めて、体力や体幹機能保持が出来るように支援させていただいています。食事が少なくなっている方に対しても、食べやすい物を提供できるよう個別に工夫・対応を行っております。看護師が、週2回勤務しており、病気等の早期発見に努めています。自然に恵まれたこのホームで、笑顔でお過ごしいただけるように、外出の機会を設けるなどしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交代して1年が経過した。利用者の日ごろの生活を介護記録や気付きノートにこまめに記録し利用者家族に伝えるなど昨年度に作成された目標達成計画に掲げた課題を確実に進めている。利用者の日ごろの生活状態を詳細に伝えることにより利用者家族の意見・要望の聞き取りに繋げるなど支援の質の向上に取り組んでいる。  
民生委員との繋がりがから今年は子ども神輿の休憩場所として施設を開放したり、従来より子ども110番の家として登録している。小学校での読み聞かせボランティアや他施設の「福祉村」への参加など地域との交流には積極的である。救命救急講習を受講して消防署に「応急手当協力事業所」として登録し地域貢献に向けた取り組みもある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で定めた運営理念、クレド、ホームに掲げた理念等、朝礼・夕礼時に唱和し、本日の目標を決めて実践しています。	法人理念を記したクレドを携帯し、朝礼・夕礼時に事務所内に掲示してある運営理念や施設目標を唱和・確認し日々の介護を実践している。今年9月には新たな理念が公開され、研修等で職員への浸透を図る予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉村の行事や地域のお祭りに参加し、地域との交流ができるように心がけています。	今年は民生委員を介して子ども神輿の休憩場所として施設を開放している。職員が小学校の読み聞かせボランティアへの参加や他施設の運営する「福祉村」にも参加し地域交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多施設の行事の参加や、散歩、近隣の喫茶店へ出かける際、認知症の方への理解や支援の方法を見ていただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。地域包括や、薬剤師、民生委員の方からアドバイスをいただき、スタッフ会議等で情報共有を行っています。	行政、地域包括のほか地域から民生委員、知見者として薬剤師も参加し利用者家族も含め2ヶ月毎に施設の状況報告や各種情報交換、アドバイス等をうけ施設運営に活かしている。	利用者家族の参加が少数で固定化される。開催日時の工夫のほか、参加しやすいような開催通知方法なども検討することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進会議への参加をいただいただくなど、電話での相談等を行っています。	運営推進会議や地域ケア会議を通して情報交換し良好な協力関係が築けている。定期的な報告・連絡のほか案内される研修・セミナーへも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人からも身体拘束に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内での身体拘束は行っていません。	法人研修や身体拘束防止の委員会活動を基に毎月のホーム会議を利用し定期的に虐待・身体拘束に関する研修を行っている。スピーチロックなどはチェックリストを活用し職員同士でも注意し合い「身体拘束ゼロ」を実現している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人からも虐待防止に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等おこない、必要な知識を取り入れていくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間を十分にとり、説明を行い、ご家族様の不安や疑問点を解決できるよう、お話をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や、ホームに意見箱を設置しています。家族様の面会時、お話をし、要望をうかがえるように努めています。会社全体で、家族様アンケートを実施し、改善していけるよう心懸けています。	運営推進会議や面会時、電話連絡時など利用者家族と接する機会には必ず意見・要望の聞き取りを行っている。利用者家族の意見を反映し、利用者宛の荷物の開封を利用者の目の前とするなどの改善をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホームの全体会議、各ユニット会議のほか、不定期にスタッフアンケートを行っています。また、随時、話ができるように声をかけるよう努めています。	毎月の全体会議やユニット会議で職員意見を聞き取っているほか、日常的に声掛けができる職場環境となっている。研修が少ないなどの意見により法人研修のほか毎月の会議を利用した施設内研修も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいため、全体の平等性も考慮しながら、環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修や、エリアでの研修の機会を設けています。業務中での疑問点などは自主的に調べられるよう職員の育成に努めています。研修参加などは、勤務を考慮し参加できるよう配慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議や、ふるさと福祉村の活動で、同業者との交流に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを実施し、利用者様のお話をゆっくりと伺い、職員間での申し送りで情報共有し、信頼関係を構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの時点から、ご本人様・ご家族様の意見を伺い、状態を把握したうえで、支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受付・事前のアセスメントの段階でご本人様やご家族様の意向を伺い、状態を把握したうえで、他のサービスのご案内をさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間の中で、利用者様と職員の距離感も近くなる中、ともに生活をする者同士、対等な立場でお話ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と対等な立場で、お話をお聞きし、利用者様を共に支えることを常に頭においてお話をさせていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら、なじみの場所(理髪店、友人に会う、通院時馴染みの場所を通るなど)へ行けるよう支援させていただいています。	家族や友人・知人の訪問のほか通院などの外出の機会を利用し馴染みの商店や喫茶店、自宅への立ち寄りなどを行っている。生活習慣を変えず携帯電話やメールなどを利用している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに関係なく交流を図っています。利用者様同士の間で、お互いに気を付けあい、声をかけていただけるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された後も、ご家族様から連絡があった際は、できる限りの支援をさせていただいております。また、ご家族様の了承を得て面会にお伺いすることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中から、困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また、会議やカンファレンスなどで、話し合いを行い、できるだけご本人様の希望に添えるような支援に努めています。	入居時のアセスメントを基に意思表示できる利用者は直接、できない利用者は家族からの聞き取りや表情仕事で思いや意向を推し測っている。涙み取った思いや意向は介護記録や気付きノートに記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、ご本人から入居前の生活をお聞きし、出来るだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とゆっくりとお話しし、一人一人の心身の状況把握に努めています。職員間で、申し送りノートなどを活用し、情報共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時期はカンファレンスシートやアセスメントの取り直しを行い、その意見をケアプランに反映させるようにしています。ご家族様や本人の言葉なども記録に残すように努めています。	1週間ごとのモニタリング、毎月のユニット会議を利用したカンファレンスにより家族意見も反映し本人の状態や意向の変化などを考慮して短期目標は3ヶ月ごとに見直しを行っている。	目標設定において数値設定できる項目は数値化し、達成度合いが評価しやすくする工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日報などで、日々の様子を記録し把握。スタッフ間で情報共有しながら、日々のケアや、ケアプランの見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や、ご本人から入居前の生活をお聞きし、出来るだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。ご本人様の状況や希望を反映しながら、柔軟な姿勢での支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	堤防の散歩、喫茶店やスーパー等に行くことで楽しんでいただけるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診も増え、ご家族様の希望に合うようにしています。他の医療機関の受診はご家族様の協力をいただいておりますが、困難な場合もあり、その際は、スタッフで支援を行っています。	複数の施設協力医と契約し入居前主治医の継続受診や訪問歯科を含め利用者の意向に沿った医療が受診できるように支援している。従前の主治医や専門医受診は家族対応を基本とするが施設側も柔軟な対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護師が勤務しており、不在日でも連絡・相談が出来るような体制であり、早期発見、早期治療ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にスタッフが、お見舞いし状況把握に努めています。面会時は病院の関係者から、状況を伺う・ご家族様とノートで共有するなどしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の指針を説明し、理解して頂けるように努めています。継続的な医療行為や治療が必要となり、長期入院となった場合などご家族様や医療機関の方を含め話し合いを行っています。現在、おひとり看取り対象の方がみえます。ご家族・かかりつけ医と連絡を密にとっています。	入居時に「重度化指針」を説明するとともに重度化に伴い医師も含め利用者家族と話し合い、利用者・利用者家族の納得が得られるような支援に取り組んでいる、今年度は6月に1名看取り実施し、現在も1名の看取り対応を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に提示し、常に緊急時の対応が確認できるようにしています。AEDの講習や、応急救置の仕方を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防避難訓練を行っています。(年2回)	年2回、昼夜の火災想定での難訓練を実施している。訓練には消防署も立会いアドバイスも得られている。停電対応など運営推進会議で情報収集し懐中電灯購入なども進めている。水害時は2階への垂直避難としている。	火災を想定した避難訓練だけではなく、水害や地震などの広域災害を想定した対応の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にホーム内でのプライバシー保護の研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないような声掛けや対応をするよう努めています。不適切なケアのチェックを行っています。	利用者は年長者であるとの意識を持ち接遇研修や不適切チェックシートを利用して利用者の人格尊重やプライバシー保護に取り組んでいる。ゆっくりはっきりと優しい言葉での声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時などご本人の思いを伺い、日常生活の中でも、食事の好みや衣服の選択が出来るなど、簡単な事を決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、何をしたいのか・どうしたいのかを伺いながら対応出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に地域の理容室の方に来ていただき、顔そりなども希望されれば出来る様に支援しています。衣服などは好みをお聞きしながら選んでいただけるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握し、希望に添える様に提供しています。お盆拭きや、台拭きなど利用者様と一緒にを行っています。梅干しを毎年つけており、皆様に梅の掃除をします。	利用者の嗜好も把握し、毎回職員が調理して利用者の状態に合わせ刻みやミキサー食などで同じ食材が食べられるように提供している。行事食や誕生日の夕食は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様おひとりおひとりの摂取量を把握し、身体状況にあった盛り付けをしています。、食事量や水分摂取量の把握をし、健康維持が出来る様に努めています。毎月、水分量の集計を行い、把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアが出来るよう声掛けをしています。協力歯科医の往診や、必要な方には歯科衛生士さんの口腔ケアなど個々に応じて週一回または1か月に1回行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンの把握をし、その方に合わせた介助を行っています。排泄用品もその方にあったものを提供しています。	自立の利用者は見守り確認とし、排泄パターン表を利用した声掛けや誘導でトイレでの自立排泄を支援している。夜間は自宅生活の継続でポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便チェックを行い、医師や看護師と相談しながら、対応を行っています。また乳製品なども活用し、個々のあった方法で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望をお聞きしながらその日の体調を考慮し、定期的に入浴をして頂いています。	週2～3回の入浴機会としているが自立の人は1日おきでも入浴を可能としている。大き目の浴槽で入浴剤なども利用し色や香りなども楽しみながらゆっくりと入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や、就寝の時間を自由にとりて頂けるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は常に確認できる場所においています。また薬の変更時にはケア日報や申し送りノートなど活用し、職員皆が把握できるようにしています。薬局さんによる薬の管理も行われており、気楽に相談が出来ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る範囲で、役割を持って生活できるよう支援を行っています。希望に応じ出来る範囲で外出や、散歩などの個別支援をし、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の個別支援については、天気や体調を考慮し近隣への散歩などを行うようにしています。また買い物や外食、誕生会なども、ご家族様のご協力を得ながら行っています。	歩行困難な利用者も車いすを利用し近隣散歩に出かけしている。医療機関受診時に買い物や喫茶店へ寄り道することも多い。家族の協力を得ての外出など外出機会を多く取れるように取り組んでいる。天候や利用者の状態により玄関前のベンチで日光浴もできる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、金銭事故を防ぐため、ご本人様の希望をお伺いし、同席のもと使用できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を伺い、ご家族さまや大切な方との電話をつなげたり、手紙など自由にやり取りが出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、飾り物を利用者様と作ったり、飾りつけを行い、利用者様の写真を廊下に飾るなど、楽しんでいただけるように努めています。	共有部分は利用者も手伝いモップ掛けなどで清潔感を保っている。廊下壁面には外出やイベントの際の写真を多く掲示し会話の話題となっている。廊下には不要なものを置かず利用者の動線を確保しており安全にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のスペースや、リビングにソファを設置し、利用者様同士がお話できる空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からのご本人の使い慣れたものや家具を使われる方や、何も無い方が良いといわれる方もご本人・ご家族様と相談しながら自由に空間を使っていただけるように努めています。	必要最小限の持ち込みからテレビやタンス、仏壇など入居前からの住環境をそのまま持ち込んだような部屋など個性にあふれ、利用者が安心して居心地よく過ごせるように工夫・配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレ・浴室などわかりやすく標しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100012		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム中西郷		
所在地	岐阜市中西郷1丁目71番地		
自己評価作成日	令和元年 8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月 8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針にも掲げているように、生活機能訓練(生活機能向上)に関する助言をPTさんにいただき、病歴・体調を考慮しながら目標を決めて、体力や体幹機能保持が出来るように支援させていただいています。食事が少なくなっている方に対しても、食べやすい物を提供できるよう個別に工夫・対応を行っております。看護師が、週2回勤務しており、病気等の早期発見に努めています。自然に恵まれたこのホームで、笑顔でお過ごしいただけるように、外出の機会を設けるなどしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2190100012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2190100012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和元年 8月26日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で定めた運営理念、クレド、ホームで掲げた理念等、朝礼・夕礼時に唱和し、本日の目標を決めて実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉村の行事や地域のお祭りに参加し、地域との交流ができるように心がけています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多施設の行事の参加や、散歩、近隣の喫茶店へ出かける際、認知症の方への理解や支援の方法を見ていただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。地域包括や、薬剤師、民生委員の方からアドバイスをいただき、スタッフ会議等で情報共有を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進会議への参加をいただきたくなど、電話での相談等を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人からも身体拘束に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内での身体拘束は行っていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人からも虐待防止に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務つけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等おこない、必要な知識を取り入れていくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間を十分にとり、説明を行い、ご家族様の不安や疑問点を解決できるよう、お話をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や、ホームに意見箱を設置しています。家族様の面会時、お話しし、要望をうかがえるように努めています。会社全体で、家族様アンケートを実施し、改善していけるよう心懸けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホームの全体会議、各ユニット会議のほか、不定期にスタッフアンケートを行っています。また、随時、話ができるように声をかけるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいため、全体の平等性も考慮しながら、環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修や、エリアでの研修の機会を設けています。業務中での疑問点などは自主的に調べられるよう職員の育成に努めています。研修参加などは、勤務を考慮し参加できるよう配慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議や、ふるさと福祉村の活動で、同業者との交流に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを実施し、利用者様のお話をゆっくりと伺い、職員間での申し送りで情報共有し、信頼関係を構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの時点から、ご本人様・ご家族様の意見を伺い、状態を把握したうえで、支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受付・事前のアセスメントの段階でご本人様やご家族様の意向を伺い、状態を把握したうえで、他のサービスのご案内をさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間の中で、利用者様と職員の距離感も近くなる中、ともに生活をする者同士、対等な立場でお話ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と対等な立場で、お話をお聞きし、利用者様を共に支えることを常に頭においてお話をさせていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら、なじみの場所(理髪店、友人に会う、通院時馴染みの場所を通るなど)へ行けるよう支援させていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに関係なく交流を図っています。利用者様同士の間で、お互いに気を付けあい、声をかけていただけるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された後も、ご家族様から連絡があった際は、できる限りの支援をさせていただいております。また、ご家族様の了承を得て面会にお伺いすることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中から、困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また、会議やカンファレンスなどで、話し合いを行い、できるだけご本人様の希望に添えるような支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、ご本人から入居前の生活をお聞きし、出来るだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とゆっくりとお話しし、一人一人の心身の状況把握に努めています。職員間で、申し送りノートなどを活用し、情報共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時期はカンファレンスシートやアセスメントの取り直しを行い、その意見をケアプランに反映させるようにしています。ご家族様や本人の言葉なども記録に残すように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日報などで、日々の様子を記録し把握。スタッフ間で情報共有しながら、日々のケアや、ケアプランの見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や、ご本人から入居前の生活をお聞きし、出来るだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。ご本人様の状況や希望を反映しながら、柔軟な姿勢での支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	堤防の散歩、喫茶店やスーパー等に行くことで楽しんでいただけるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診も増え、ご家族様の希望に合うようにしています。他の医療機関の受診はご家族様の協力をいただいておりますが、困難な場合もあり、その際は、スタッフで支援を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護師が勤務しており、不在日でも連絡・相談が出来るような体制であり、早期発見、早期治療ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にスタッフが、お見舞いし状況把握に努めています。面会時は病院の関係者から、状況を伺う・ご家族様とノートで共有するなどしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の指針を説明し、理解して頂けるように努めています。継続的な医療行為や治療が必要となり、長期入院となった場合などご家族様や医療機関の方を含め話し合いを行っています。R1.6月 ご家族様・かかりつけ医の協力を得て、看取りも行いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に提示し、常に緊急時の対応が確認できるようにしています。AEDの講習や、応急処置の仕方を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防避難訓練を行っています。(年2回)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にホーム内でのプライバシー保護の研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないような声掛けや対応をするよう努めています。不適切なケアのチェックを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時などご本人の思いを伺い、日常生活の中でも、食事の好みや衣服の選択が出来るなど、簡単な事を決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、何をしたいのか・どうしたいのかを伺いながら対応出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に地域の理容室の方に来ていただき、顔そりなども希望されれば出来る様に支援しています。衣服などは好みをお聞きしながら選んでいただけるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握し、希望に添える様に提供しています。お盆拭きや、台拭きなど利用者様と一緒にしています。梅干しを毎年つけており、皆様に梅の掃除をします。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様おひとりおひとりの摂取量を把握し、身体状況にあった盛り付けをしています。、食事量や水分摂取量の把握をし、健康維持が出来る様に努めています。毎月、水分量の集計を行い、把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアが出来るよう声掛けをしています。協力歯科医の往診や、必要な方には歯科衛生士さんの口腔ケアなど個々に応じて週一回または1か月に1回行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンの把握をし、その方に合わせた介助を行っています。排泄用品もその方にあつたものを提供しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便チェックを行い、医師や看護師と相談しながら、対応を行っています。また乳製品なども活用し、個々のあつた方法で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ご本人の希望をお聞きしながらその日の体調を考慮し、定期的に入浴をして頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や、就寝の時間を自由にとって頂けるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は常に確認できる場所においています。また薬の変更時にはケア日報や申し送りノートなど活用し、職員皆が把握できるようにしています。薬局さんによる薬の管理も行われており、気楽に相談が出来ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る範囲で、役割を持って生活できるよう支援を行っています。希望に応じ出来る範囲で外出や、散歩などの個別支援をし、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の個別支援については、天気や体調を考慮し近隣への散歩などを行うようにしています。また買い物や外食、誕生会なども、ご家族様のご協力を得ながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、金銭事故を防ぐため、ご本人様の希望をお伺いし、同席のもと使用できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を伺い、ご家族さまや大切な方との電話をつなげたり、手紙など自由にやり取りができる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、飾り物を利用者様と作ったり、飾りつけを行い、利用者様の写真を廊下に飾るなど、楽しんでいただけるように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のスペースや、リビングにソファを設置し、利用者様同士がお話できる空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からのご本人の使い慣れたものや家具を使われる方や、何も無い方が良いと言われる方もご本人・ご家族様と相談しながら自由に空間を使っていただけるように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレ・浴室などわかりやすく標しています。		